

大規模崩壊地周辺の凹地内堆積物からみた崩壊地の拡大過程

Evolution style of large-scale landslide with deep-seated gravitational slope deformation

目代 邦康 [1]

Kuniyasu Mokudai[1]

[1] 産総研・地質標本館

[1] GSJ, AIST

<http://staff.aist.go.jp/k-mokudai/>

日本の堆積岩山地には大規模な崩壊地が各地に存在する。その崩壊地周辺には、小崖地形や線状凹地とよばれる特徴的な地形が存在することが多い。いくつかの崩壊地において、急傾斜した層構造が斜面下方に倒れるタイプの山体変形が起こっていることが地質学的な調査から明らかにされている。そこで、本研究では、赤石山脈南部の大谷崩と赤崩周辺を対象地域として、岩盤の変形に伴って形成された凹地の堆積物を用いて、山体の変形過程の解明を試みた。大谷崩周辺では、凹地内から、始良 Tn 火山灰と周氷河成堆積物が見出され、2 万年前よりも古くに変形が始まったことがわかった。また堆積物の対比により、山体の変形が山稜上部から下方に向かって進行することが明らかになった。そして、堆積物の堆積構造は、大規模な崩壊地が、長期間にわたって断続的に成長していることを示唆する。